

第3章

緑に関する市民意識調査



第3章 緑に関する市民意識調査

1. 市民アンケート調査の結果概要

(1) 調査目的と方法

①調査目的

本アンケート調査は、「緑の基本計画」策定のため、緑地の保全と緑化の推進に関する市民の意向等をお聞かせいただき、計画づくりの資料とするため実施したものです。

調査は、住民基本台帳から無作為に抽出した18歳以上の方3,000人を対象に、平成25年1月から2月に実施しました。

②調査項目

項目	内容	項目	内容
回答者の概要	<ul style="list-style-type: none">・性別・年齢・居住地区・居住開始年	より広い地域からみた公園・緑地	<ul style="list-style-type: none">・市内でよく出かける野外活動場所・野外活動場所の利用回数・活動場所での主な活動・活動における問題点・市外でよく出かける野外活動場所・市内で守りたい「緑」
「緑」の現状と意識	<ul style="list-style-type: none">・「緑」から連想するもの・市内の「緑」・どんな「緑」を増やしたいか・「緑」に期待するもの	市内の緑化を進める活動	<ul style="list-style-type: none">・緑化活動への関心・現在取り組んでいる緑化活動・これから取組みたい緑化活動・緑化活動を活発にする条件
市内の身近な公園・緑地	<ul style="list-style-type: none">・身近な公園・緑地の利用・身近な公園・緑地の評価・身近な公園・緑地にほしい施設や設備・身近な公園・緑地の維持管理	「緑」の施策	<ul style="list-style-type: none">・「緑」を守り育てていく施策・「緑」を保全する方法

③調査方法等

- | | | | |
|--------|-------------------------------|----------|--------|
| ・調査対象 | 住民基本台帳から無作為に抽出した18歳以上の方3,000人 | | |
| ・配布回収 | 郵送による配布・留置回収 | | |
| ・配布数 | 3,000票 | ・回収票 | 1,137票 |
| ・有効票 | 1,135票 | ・無効票（白票） | 2票 |
| ・有効回収率 | 37.8% | | |

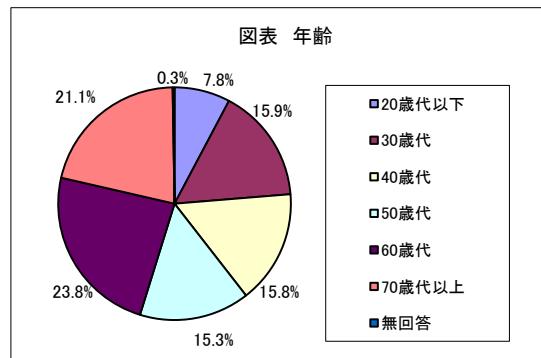
(2) 回答者の概要

①性別

性別は、「男性」が4割、「女性」が6割でした。

②年齢

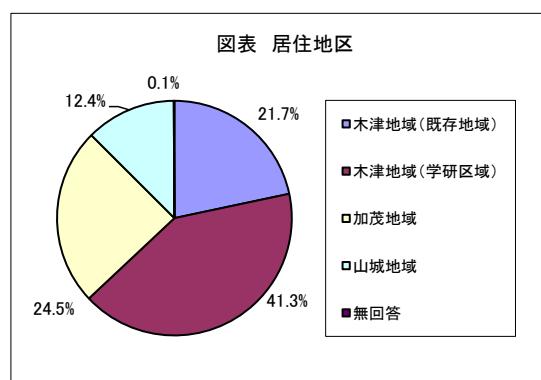
年齢別には、「60歳代」が23.8%と最も多く、50歳以上が約6割を占めていました。住民基本台帳人口によると本市の20歳以上に占める50歳以上比率は約4割ですので、本調査は高齢者の回答率が高い傾向にあると言えます。



③居住地区

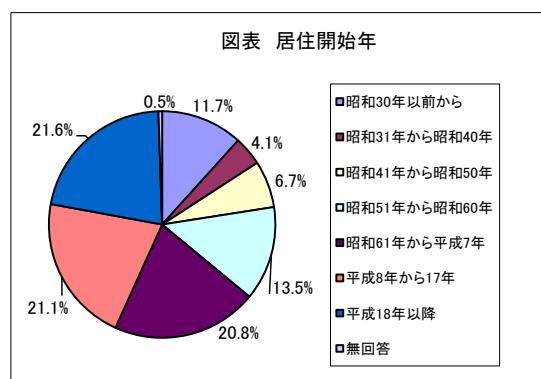
居住地区別には、「木津地域（学研地区）」が最も多く、ついで「加茂地域」、「木津地域（既存地区）」と続いています。

ほぼ、地域別人口に比例して回答をいただいている。



④居住開始年

居住開始年は、「平成18年以降」が最も多く、木津地域（学研地区）人口に対応して、平成期からの居住者が半数程度を占めています。



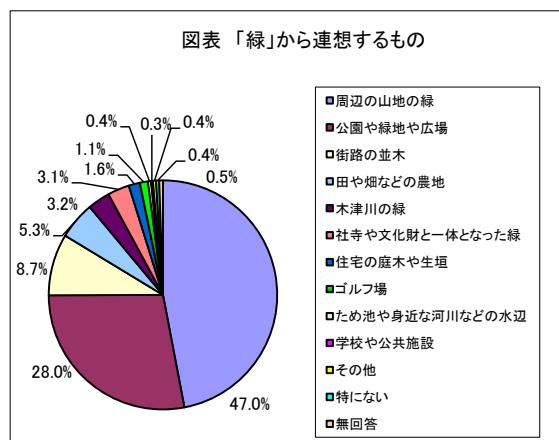
(3) 「緑」の現状と意識

① 「緑」から連想するもの

「緑」というと一番に連想するものは、「周辺の山地の緑」が最も多く、二番目に多い「公園や緑地や広場」と合わせて全体の3/4を占めています。

「緑」のイメージとして、「周辺の山地」、「公園、緑地」などを結びつける方が多くなっています。

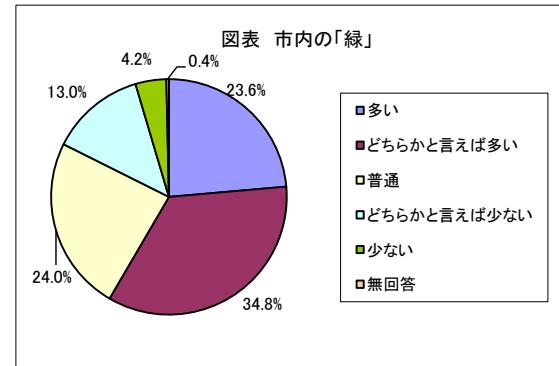
居住地別でも、ほぼ同様な傾向ですが、木津地域（学研地区）では「周辺の山地の緑」、「公園や緑地や広場」が拮抗しています。



② 市内の「緑」

市内の「緑」については、「どちらかと言えば多い」が34.8%と最も多く、ついで「普通」が24.0%、「多い」が23.6%などとなっており、全体的に、「緑」が比較的多いと感じていることがうかがえます。

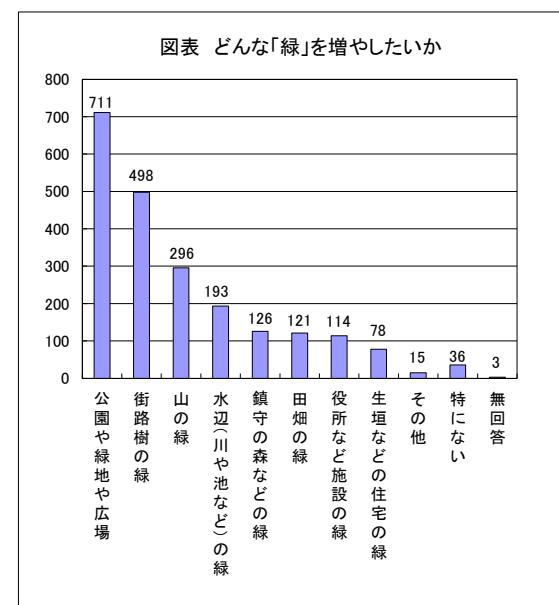
居住地別に見てもほぼ同様な傾向ですが、木津地域の既存地区、学研地区とも「どちらかと言えば多い」が多く、山城地域、加茂地域は「多い」が多くなっています。



③ どんな「緑」を増やしたいか（複数回答）

どんな「緑」を増やしたいかについては、「公園や緑地や広場」、「街路樹の緑」への回答が多く、ついで「山の緑」、「水辺の緑」などと続いている。

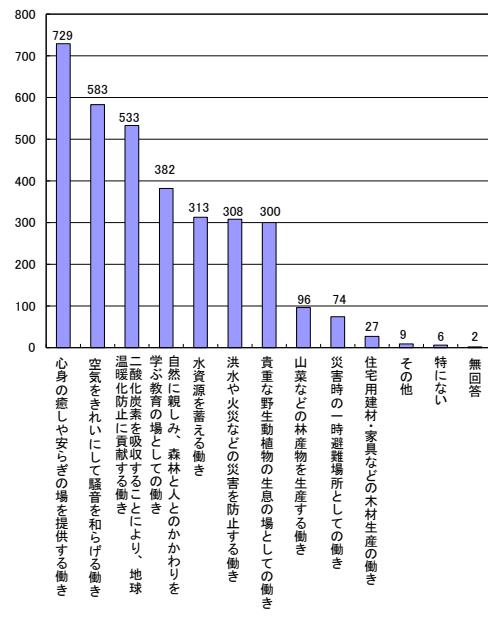
回答からは、身近な緑への関心が強いことがうかがえます。



④「縁」に期待するもの（複数回答）

「縁」に期待するものでは、「心身の癒しや安らぎの場を提供する働き」、「空気をきれいにして騒音を和らげる働き」、「二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化防止に貢献する働き」などが多く、身の回りの環境保全の役割を重視していることがうかがえます。

図表 「縁」に期待するもの



(参考) 森林と生活に関する世論調査(世論調査報告書)

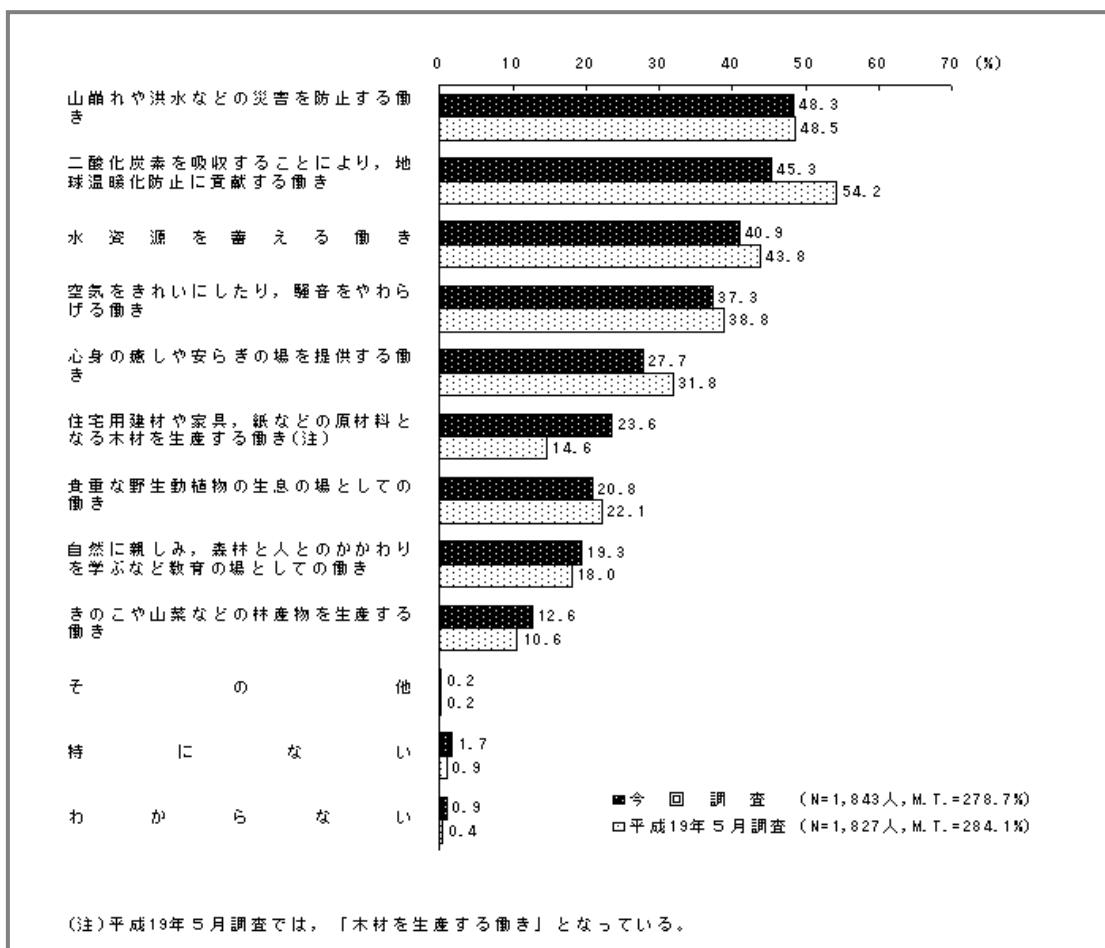
平成23年12月 内閣府大臣官房政府広報室

全国20歳以上の者 3,000人 層化2段無作為抽出法 調査員による個別面接聴取法

○森林に期待する働き

今後、森林にどのような働きを期待するか聞いたところ、「山崩れや洪水などの災害を防止する働き」と、「二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化防止に貢献する働き」を挙げた者の割合が高く、以下、「水資源を蓄える働き」、「空気をきれいにしたり、騒音をやわらげる働き」などの順となっています。(複数回答、位4項目)

図表 森林に期待する働き(3つまでの複数回答)



○今回の市民アンケート調査との比較

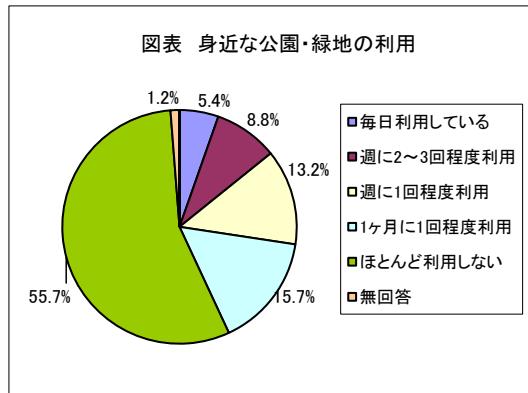
市民アンケート調査では、「心身の癒しや安らぎの場を提供する働き」が最も多く、ついで「空気をきれいにして騒音を和らげる働き」、「二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化防止に貢献する働き」などとなっており、上記調査結果が災害への対応などの関心が高いことと、やや異なる結果となりました。

(4) 市内の身近な公園・緑地

① 身近な公園・緑地の利用

身近な公園・緑地の利用は、「ほとんど利用しない」が最も多く、過半数を占めています。ついで「1ヶ月に1回程度利用」、「週に1回程度利用」と続いています。

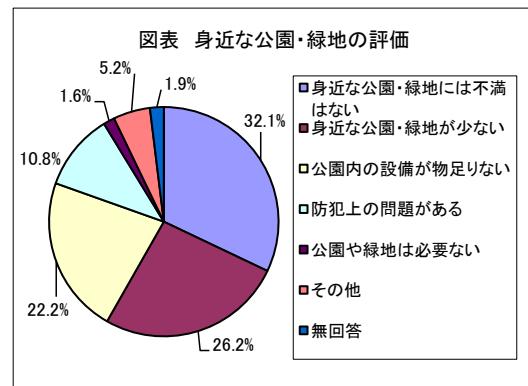
必ずしも、身近な公園の利用は進んでいないことがうかがえます。



② 身近な公園・緑地の評価

身近な公園・緑地の評価では、「身近な公園・緑地には不満はない」が最も多く、ついで「身近な公園・緑地が少ない」、「公園内の設備が物足りない」などとなっています。

木津地域（学研地区）、加茂地域では「身近な公園・緑地には不満はない」が多く、木津地域（既存地区）と山城地域においては、「身近な公園・緑地が少ない」が多くなっています。



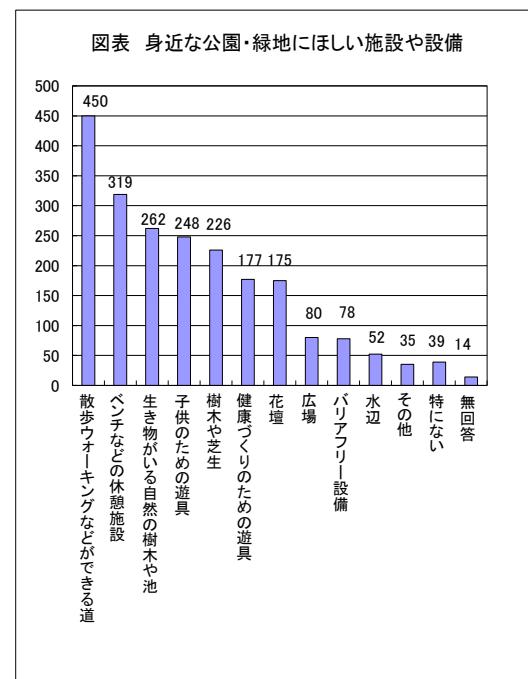
③ 身近な公園・緑地にほしい施設や設備

（複数回答）

ほしい施設・設備では、「散歩ウォーキングなどができる道」が最も多く、ついで「ベンチなどの休憩施設」、「生き物がいる自然の樹木や池」、「子供のための遊具」などの順となっています。

回答者の中高年比率の高さに対応して、軽い運動のための設備や休憩施設などへの回答が、子供のための設備よりも多くなっています。

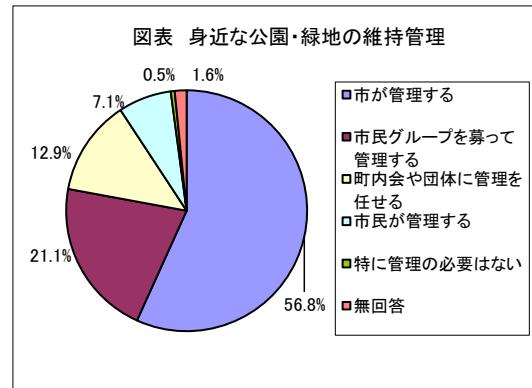
年齢別には、30歳代で「子供のための遊具」が最も多く、その他の年代では「散歩ウォーキングなどができる道」が多くなっています。



④ 身近な公園・緑地の維持管理

公園・緑地の維持管理では、「市が管理する」が最も多く、過半数を占めています。ついで「市民グループを募って管理する」などが続いている。

維持管理主体のイメージは、市管理から市民グループ、町内会などに広がりを見せ始めています。



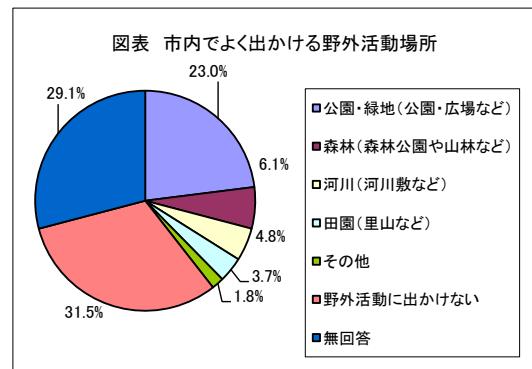
(5) より広い地域からみた公園・緑地

① 市内でよく出かける野外活動場所

よく出かける野外活動場所は、「野外活動に出かけない」が最も多いものの、場所としては「公園・緑地」が最も多くなっています。

年齢別には、50歳代以上で「野外活動に出かけない」が多く、40歳代以下では「公園・緑地」が多くなっています。

居住地別には、ほぼ同様な傾向ですが、木津地域（学研地区）では、「公園・緑地」が多くなっています。



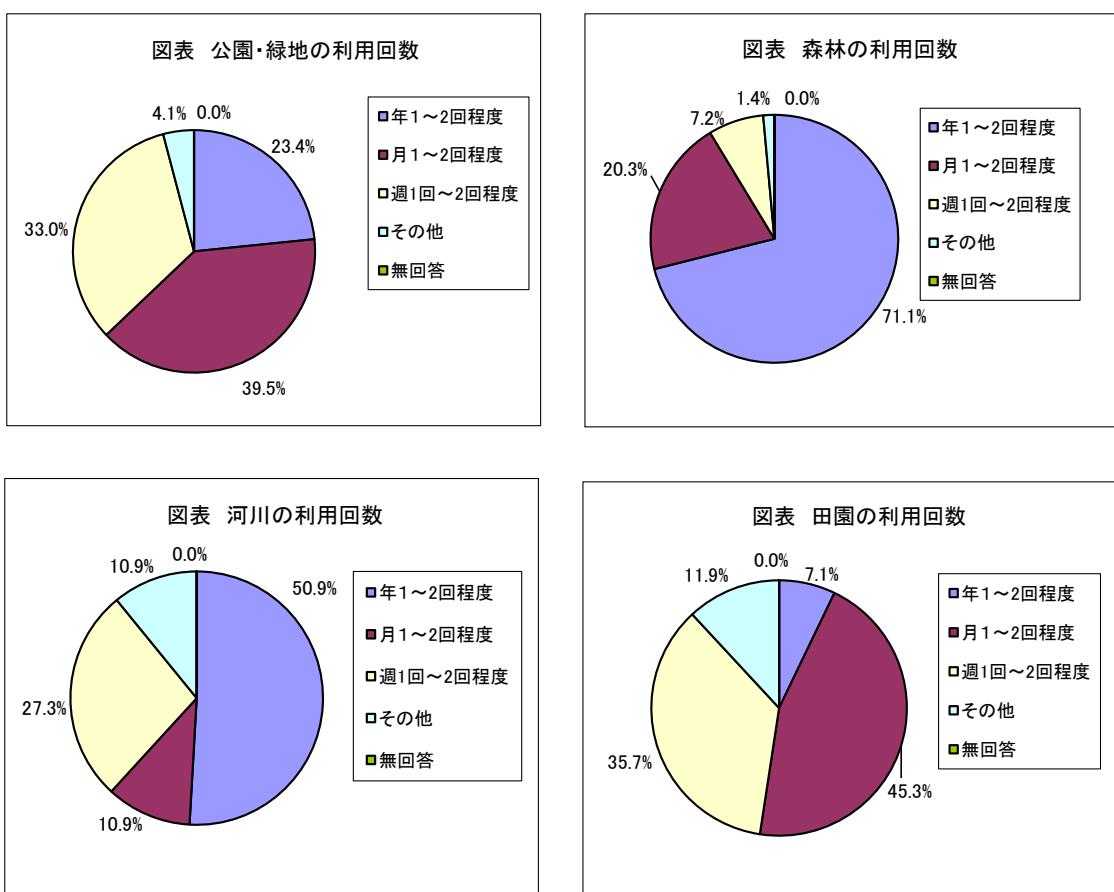
② 野外活動場所の利用回数

よく出かける野外活動場所について、それぞれの利用回数は、「公園・緑地」は「月1～2回」、「週1～2回」が多く、「森林」は「年1～2回」が圧倒的に多くなっています。

「河川」は「年1～2回」、「週1～2回」が多く、「田園」は「月1～2回」、「週1～2回」が多くなっています。

「公園・緑地」と「田園」は利用頻度が高い傾向が類似し、「森林」は年数回レベルとなっています。

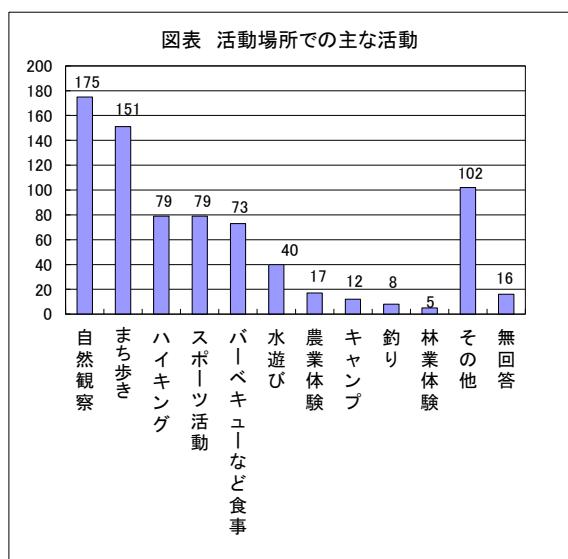
また、「河川」は年数回と週数回に利用傾向が分かれています。



③野外活動場所での主な活動

(複数回答)

よく出かける野外活動場所での主な活動は、「自然観察」や、「まち歩き」などが多くなっています。



④活動における問題点

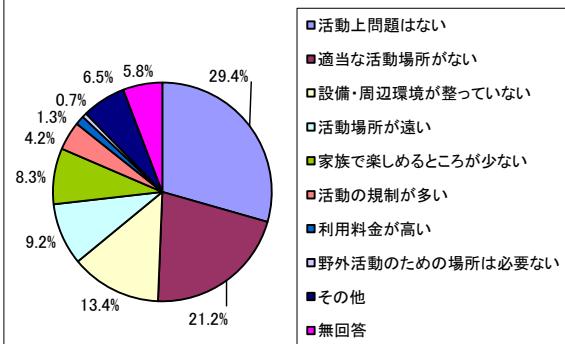
活動場所での問題点については、「活動上問題はない」が最も多く、ついで「適当な活動場所がない」、「設備・周辺環境が整っていない」などとなっています。

一定の野外活動場所が確保されていることがうかがえますが、全体的には数量、設備等の問題が指摘されています。

年代別には、20歳代以下、50歳代で「適当な活動場所がない」が多く、30歳代、40歳代、60歳代で「活動上問題はない」が多くなっています。

居住地別には、木津地域（既存地区）と山城地域は「適当な活動場所がない」が多く、木津地域（学研地区）、加茂は「活動上問題はない」が多くなっています。

図表 活動における問題点



⑤市外でよく出かける野外活動場所

市外でよく出かける野外活動場所では、「奈良市（奈良公園など）」65、「精華町（けいはんな記念公園など）」65、「笠置町（木津川河川敷など）」16、「宇治市（太陽が丘など）」10などと続いている。

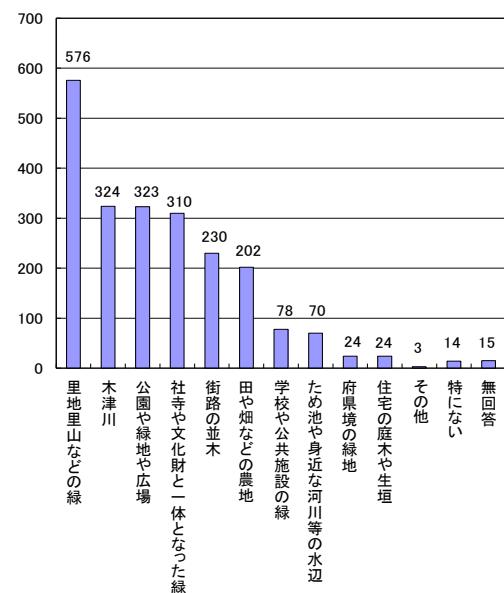
⑥市内で守りたい「緑」

（複数回答）

市内で守りたい「緑」は、「里地里山などの緑」が最も多く、ついで「木津川」、「公園や緑地や広場」、「社寺や文化財と一体となった緑」と続いている。

学研地区居住者も含め、里地里山などの「緑」への関心が高いことがうかがえるものとなっています。

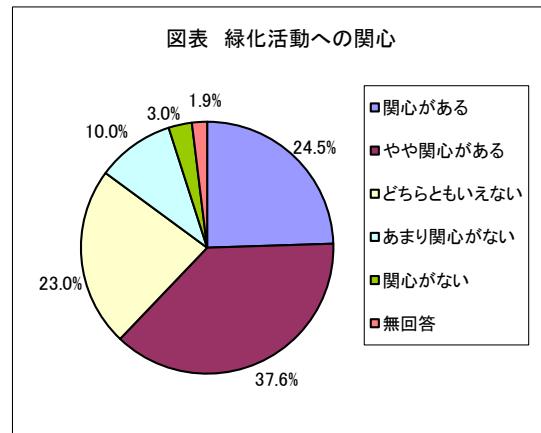
図表 市内で守りたい「緑」



(6) 市内の緑化を進める活動

①緑化活動への関心

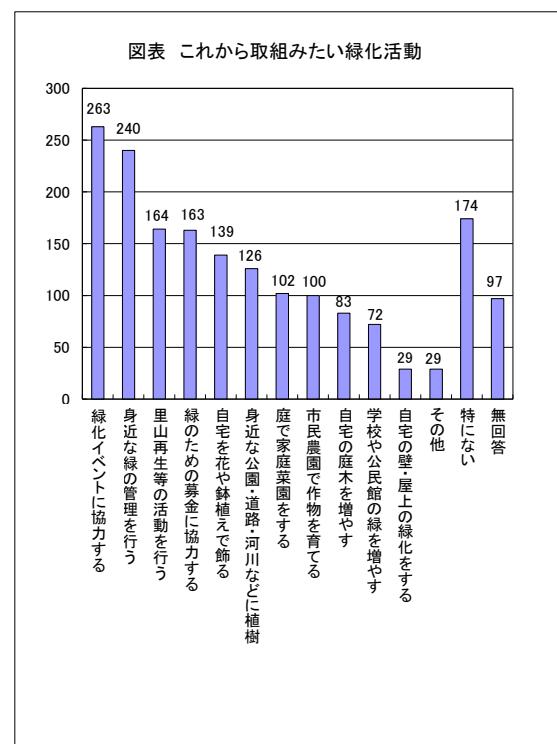
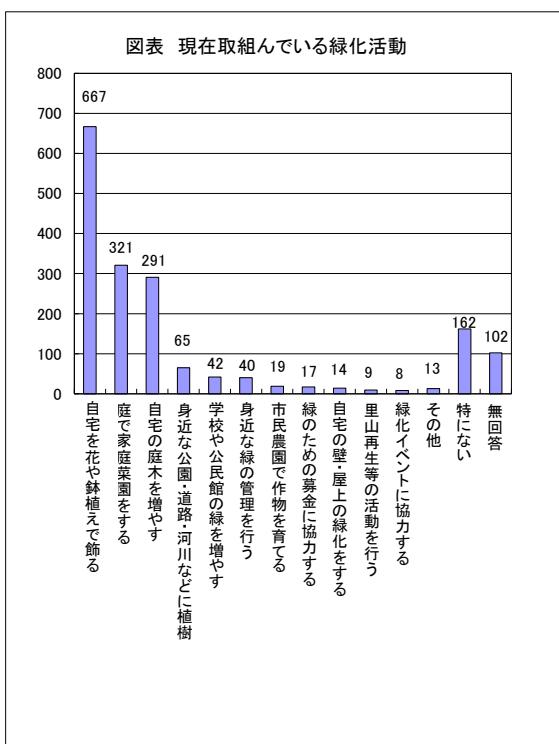
緑化活動への関心では、「やや関心がある」が 37.6%と最も多く、「関心がある」と合わせて 6 割以上を占めており、関心の高さがうかがえます。



②緑化活動（現在とこれから）（複数回答）

現在取組んでいる緑化活動は、「自宅を花や鉢植えで飾る」、「庭で家庭菜園をする」、「自宅の庭木を増やす」などであり、自宅の庭での活動が中心となっています。

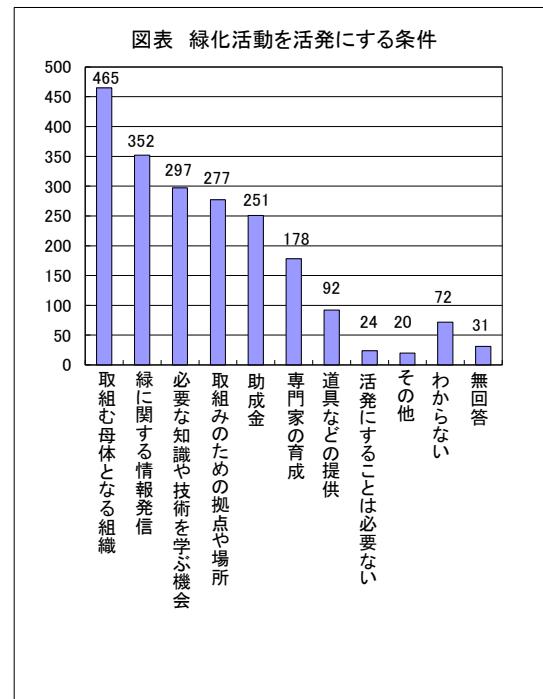
これから取組みたい緑化活動は、「緑化イベントに協力する」、「身近な緑の管理を行う」などとなっており、周辺地域の活動への関心がうかがえます。



③緑化活動を活発にする条件（複数回答）

「取組む母体となる組織」が最も多く、ついで「緑に関する情報発信」、「必要な知識や技術を学ぶ機会」などとなっています。

緑化活動を進めるまでの初期的な手がかりが求められていることがうかがえます。



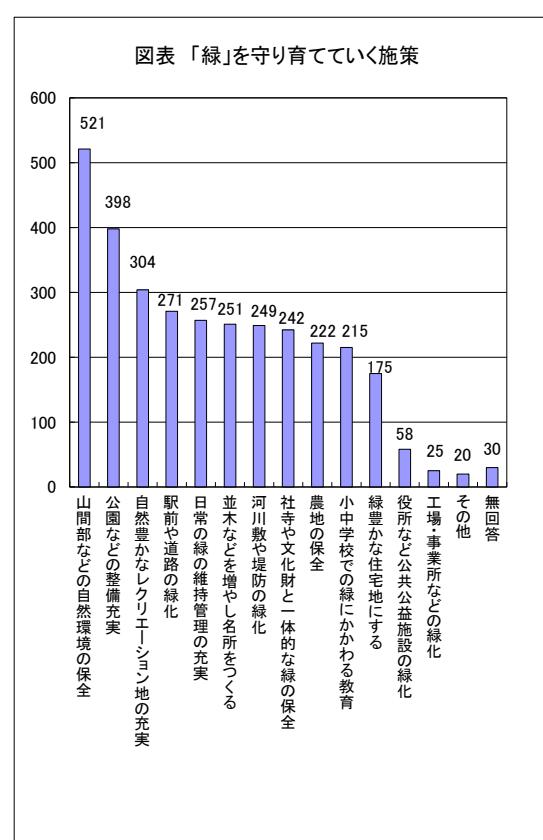
(7) 「緑」の施策

① 「緑」を守り育てていく施策 (複数回答)

今後、「緑」を守っていくため重点的にすべきことは、「山間部などの自然環境の保全」が最も多く、ついで「公園などの整備充実」、「自然豊かなレクリエーション地の充実」などとなっています。

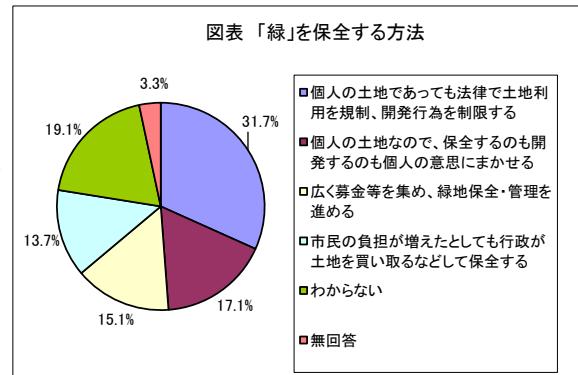
里地里山への関心を背景に、「山間部の自然環境の保全」、「自然豊かなレクリエーション地の充実」などが、身近な公園などの整備とともに求められています。

年齢別には、20歳代以下、30歳代で「公園などの整備充実」が多く、それ以上の年齢では「山間部などの自然環境の保全」が多くなっています。



②「緑」を保全する方法

「緑」を保全する方法では、「個人の土地であっても法律で土地利用を規制、開発行為を制限する」が31.7%と最も多いものの、その他の意見も10数%ずつと、意見が分かれています。



(8) 市民アンケート調査の結果からみる市民ニーズと緑の課題

○「守りたい緑」

- 「里地里山などの緑」が多く、ついで「木津川」、「公園や緑地や広場」など。
- 緑に期待するものは、「心身の癒しや安らぎの場」、「空気をきれいにして騒音を和らげる」、「二酸化炭素を吸収して地球温暖化防止」などの環境保全を重視しています。



里地里山の緑など大きな緑の保全

○「公園・緑地の利用」

- 身近な公園・緑地の利用は必ずしも進んでいませんが、その理由は「身近な公園・緑地が少ない」、「公園内の設備が物足りない」など。
- 公園にほしい施設・設備は、「散歩ウォーキングなどができる道」、「ベンチなどの休憩施設」などで、中高年のニーズも加わり、施設のネットワーク利用が表れています。



身近な公園・緑地の充実とネットワーク利用

○「野外活動」

- 野外活動へは、全体として必ずしも「出かける」への回答は多くないものの、学研地区では「公園・緑地」によく出かけています。その他市民の主な野外活動場所は「当尾の里」など。



交流拠点としての野外活動の場の確保

○「緑化への市民の関心・参加」

- 市民の緑化への関心は、現在のところ身の回りの「家庭菜園」などですが、今後取組みたい活動は、「緑化イベントへの協力」、「身近な緑の管理」などに向かっています。
- 公園・緑地の維持管理は、市管理を中心としつつも、市民グループ、町内会による管理主体もイメージされています。



市民の緑化活動への参加促進

2. 子どもアンケート調査の結果概要

(1) 調査目的と方法

①調査目的

本アンケート調査は、「緑の基本計画」策定のため、緑地の保全と緑化の推進に関わる子どもたちの意見を聞き、計画づくりの資料とする目的で実施したものです。

調査は、小学校3年生以上のことどもエコクラブの会員75人を対象に、平成25年2月から3月に実施しました。

②調査項目

項目	内容	項目	内容
回答者の概要	<ul style="list-style-type: none">性別 (小中学校別)(居住地)	遊び場所、身近な公園・緑地	<ul style="list-style-type: none">放課後の主な遊び場所家の外の遊び場所1年間の野外活動身近な公園・緑地の利用身近な公園・緑地の評価身近な公園・緑地にほしい施設・設備身近な公園・緑地のそうじ・管理
「緑」に対する意識	<ul style="list-style-type: none">市内の「緑」身の回りで増やしたい「緑」	「緑」を守り育てるについて	<ul style="list-style-type: none">守りたい「緑」「緑」を守り育てていく施策「緑」の大切さを学ぶ相手

③調査方法等

- 調査対象 小学校3年生以上のことどもエコクラブの会員 75人
(うち相楽台小学校4年生44人、その他31人)
- 配布回収 郵送及び会員による配布・留置回収
- 配布数 75票
- 回収票 51票 (うち相楽台小学校39票、その他12(木津地域既存地区2票
木津地域学研地区10票))
- 有効票 51票
- 有効回収率 68.0%

(2) 回答者の概要

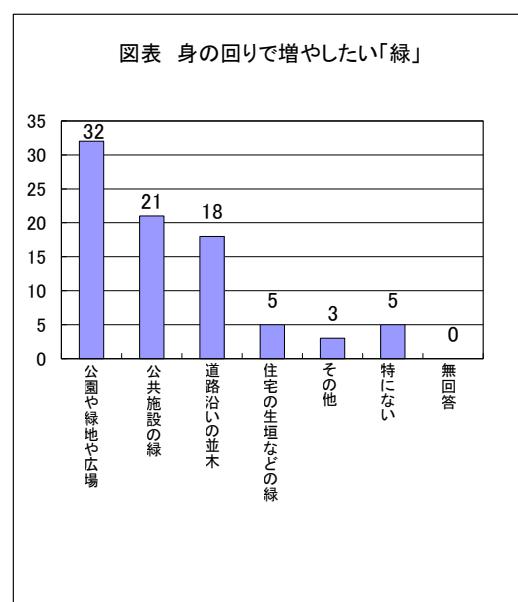
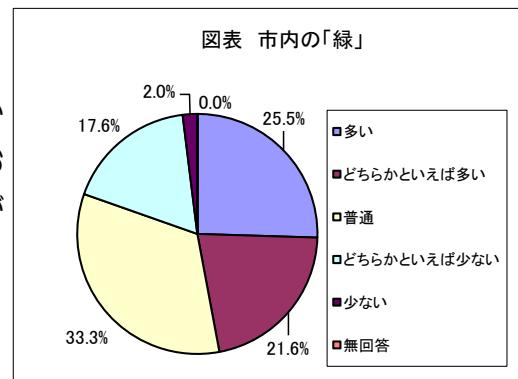
①性別

性別は、「男性」33.3%、「女性」66.7%でした。

(3) 「緑」に対する意識

①市内の「緑」

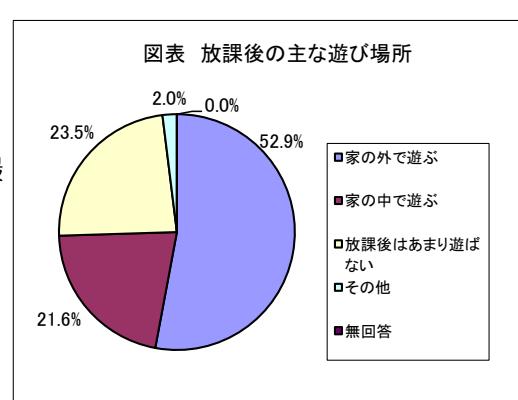
市内の「緑」について、「多い」、「どちらかといえば多い」を合わせて47.1%となっており、比較的、「緑」が多いと感じていることがうかがえます。



(4) 遊び場所、身近な公園・緑地

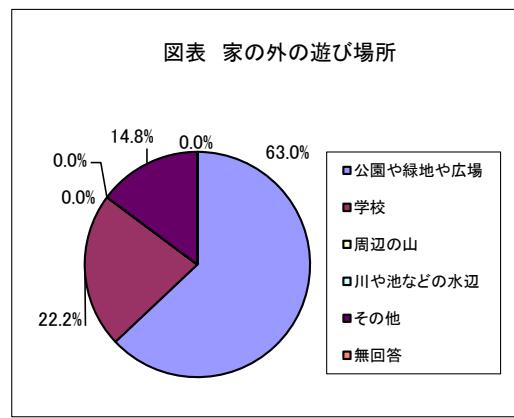
①放課後の主な遊び場所

放課後の遊び場所は、「家の外で遊ぶ」が最も多く、ついで「放課後はあまり遊ばない」、「家の中で遊ぶ」などとなっています。



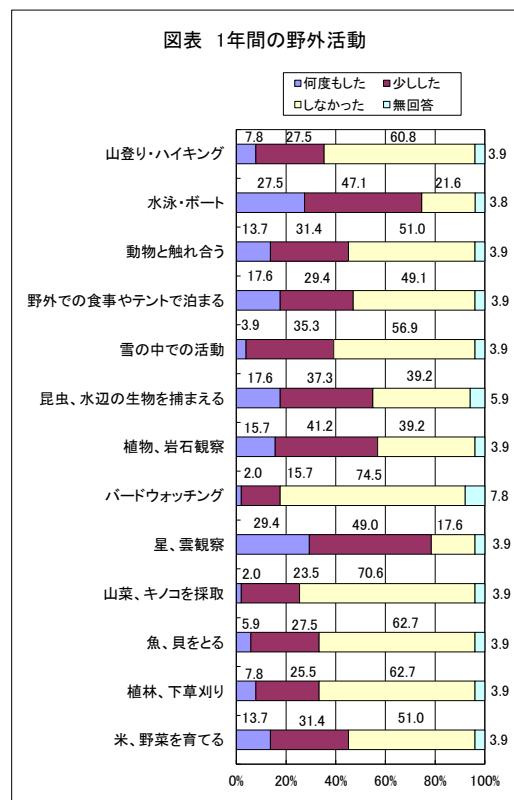
②家の外の遊び場所

家の外の遊び場所としては、「公園や緑地や広場」が最も多く、ついで「学校」などとなっています。



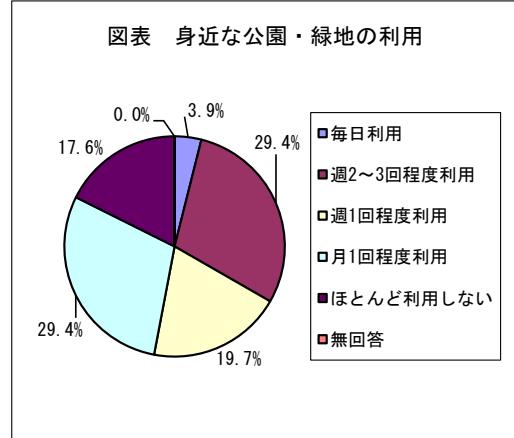
③1年間の野外活動

この1年間の野外活動については、「水泳、ボート」、「星、雲観察」などは比較的行われていますが、その他の活動は低调でした。



④身近な公園・緑地の利用

公園・緑地の利用については、「毎日利用」は少ないものの、「週2~3回程度利用」と「月1回程度利用」が多く、比較的利用されています。

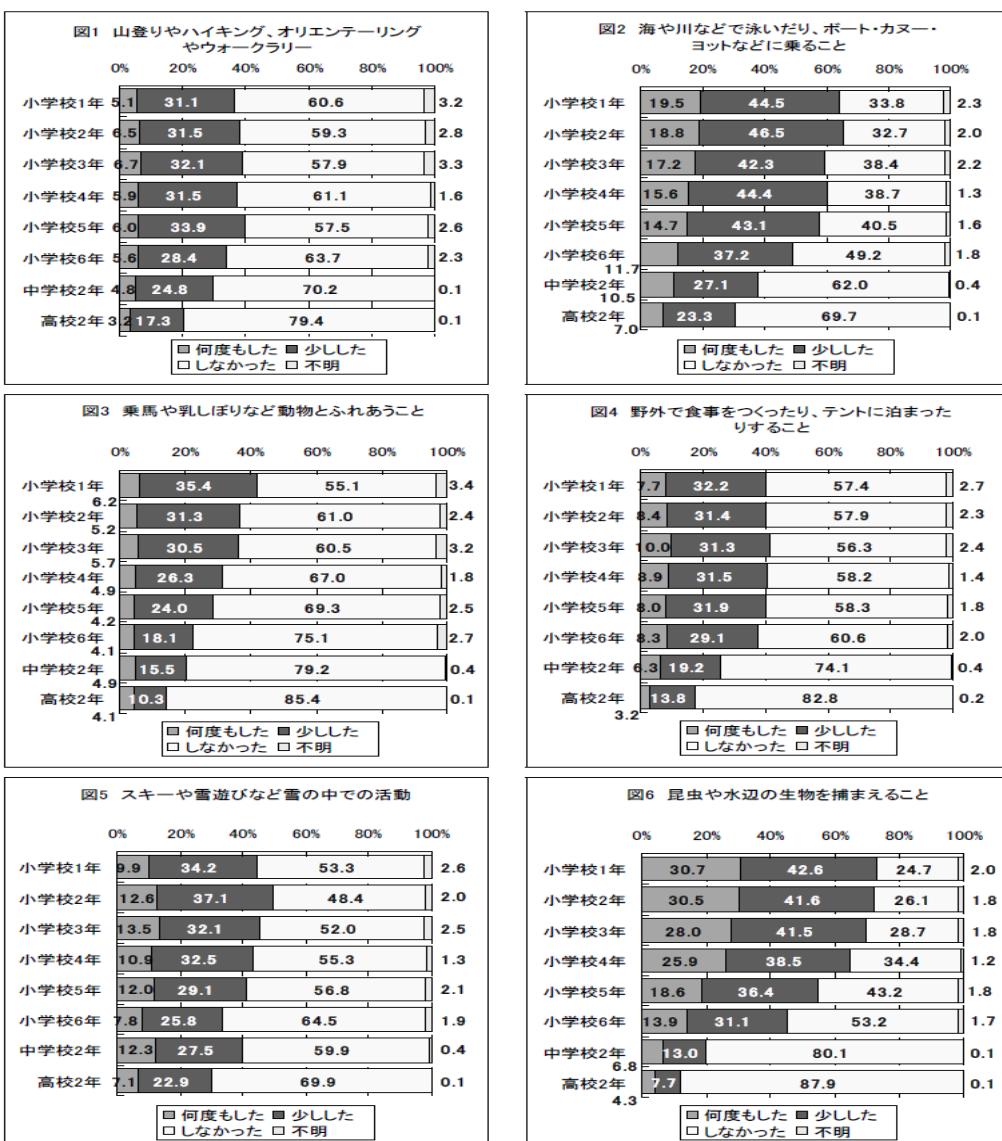


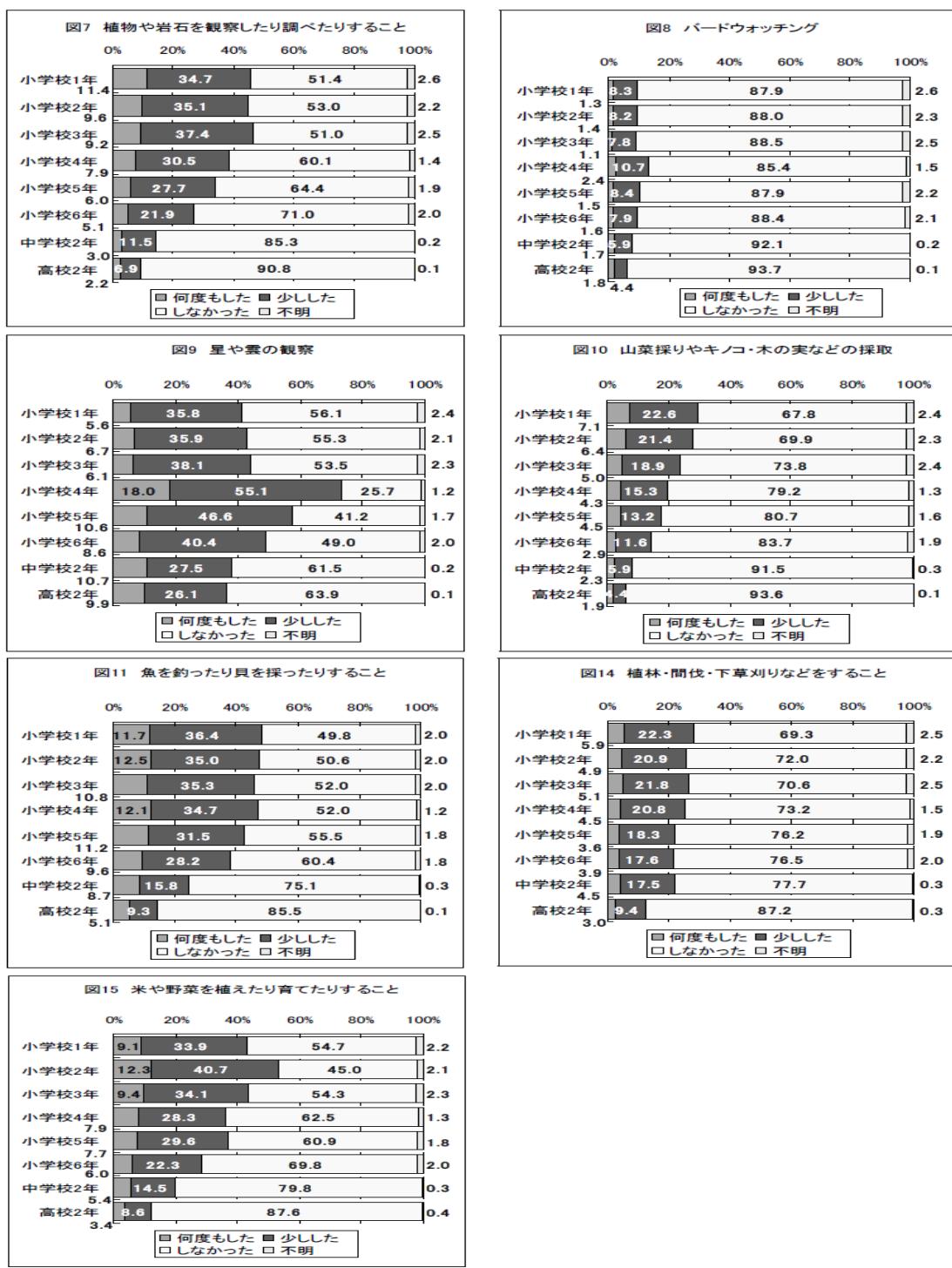
(参考)「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」(平成 22 年度調査) 報告書
平成 23 年 11 月 7 日 国立青少年教育振興機構

調査対象者の抽出には、学年ごとに、学校を第一次抽出単位、学級を最終抽出単位とする層化二段集落抽出。小学校(各学年 100 校)、中学校(150 校)、高等学校(150 校)合計 900 校、28,430 名の全国規模調査。

○学校の授業や行事以外の自然体験活動

「海や川などで泳いだり、ボート・カヌー・ヨットなどに乗ること」(図 2)、「昆虫や水辺の生物を捕まえること」(図 6)、「植物や岩石を観察したり調べたりすること」(図 7)、「山菜採りやキノコ・木の実などの採取」(図 10)について、学年が上がるにつれて「何度もした」の比率が低くなっています。特に「昆虫や水辺の生物を捕まえること」(図 6)では、小学校 1 年が 30.7% であるのに対し、高校 2 年は 4.3% と 20 ポイント以上低くなっています。





○今回の子どもアンケート調査の結果との比較

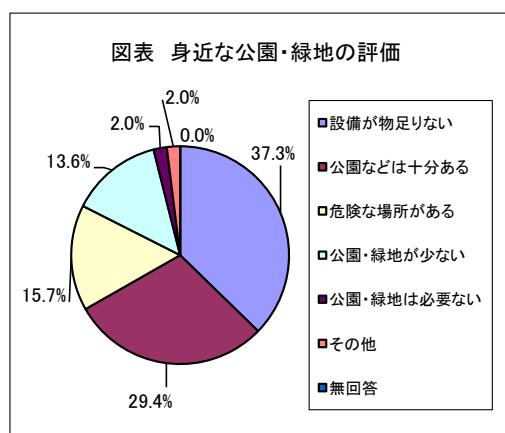
木津川市の子どもたちが比較的「した」ことが多いものは、「水泳・ボート」、「動物と触れ合う」、「野外での食事やテントで泊まる」、「植物、岩石観察」、「バードウォッチング」、「星、雲観察」、「山菜、キノコを採取」、「植林、下草刈り」であり、「雪の中での活動」、「昆虫、水辺の生物を捕まえる」、「魚、貝をとる」が比較的少ない結果となりました。

活動内容については、自然体験活動は全国並み以上されていると考えられます。また、「星、雲観察」がとりわけ多いのは、近年の日食などへの関心の高まりも影響しているものと思われます。

⑤身近な公園・緑地の評価

公園・緑地の評価としては、「設備が物足りない」が最も多く、ついで「公園などは十分ある」、「危険な場所がある」などとなっています。

設備が物足りないと指摘は、ボール遊びなどの禁止などの影響があるものと思われますが、公園配置は比較的評価されているものと思われます。

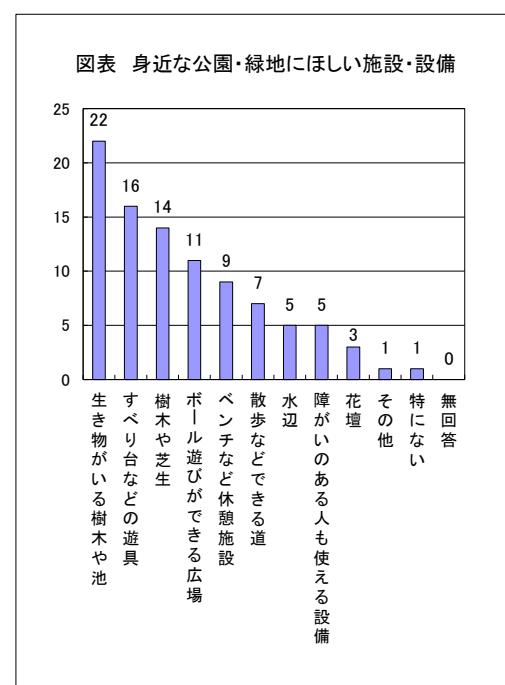


⑥身近な公園・緑地にほしい施設・設備

(複数回答)

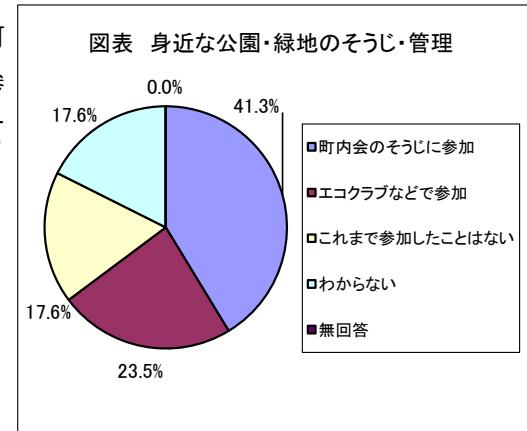
公園・緑地にほしい施設・設備は、「生き物がいる樹木や池」が最多く、ついで「すべり台などの遊具」、「樹木や芝生」などとなっています。

比較的自然環境のよさを志向していることがうかがえます。



⑦身近な公園・緑地のそうじ・管理

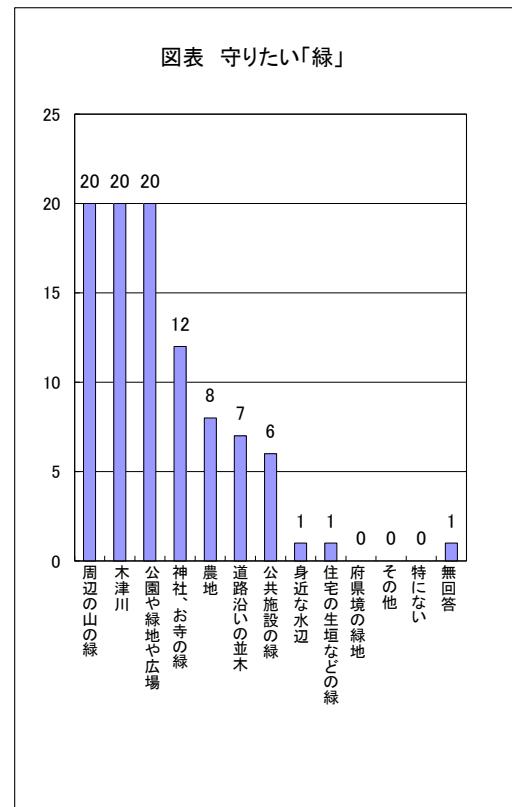
公園・緑地のそうじ・管理については、「町内会のそうじに参加」、「エコクラブなどで参加」など、過半数がそうじ・管理に参加している結果となりました。



(5)「緑」を守り育てることについて (複数回答)

①守りたい「緑」

とりわけ守りたい「緑」は、「周辺の山の緑」、「木津川」、「公園や緑地や広場」などが多くなっており、この結果は、市民アンケート調査の結果とも重なる内容となっています。本市の緑の骨格が、これらによって構成されていることがうかがえます。

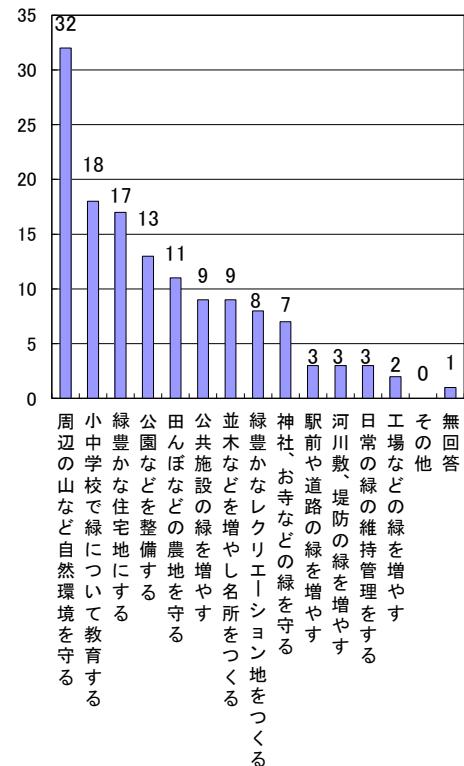


②「緑」を守り育てていく施策（複数回答）

今後の緑を守り育てていくための施策では、「周辺の山など自然環境を守る」が最も多く、ついで「小中学校で緑について教育する」、「緑豊かな住宅地にする」などとなっています。

緑についての関心が、「周辺の山など」に多く集まっているのは、市民アンケート調査の結果とも重なるものとなっています。

図表 「緑」を守り育てていく施策



③「緑」の大切さを学ぶ相手

大半は「学校の先生」ですが、ついで「家族」、「クラブなどの地域の人」などとなっており、情報先に広がりが表れている様子がうかがえます。

図表 「緑」の大切さを学ぶ相手

